PET レター Vol. 2

発行日：2007年9月1日
㈱日立製作所日立総合病院
PETセンタ
発行責任者：平井信二

PET検査を多くの患者さまにご利用いただくために

日立総合病院PETセンタ長兼副院長　平井信二

今年はまさに「猛暑」の夏でしたが，先生方にはいかがお過ごしでしょうか．

PETレターの第2号をお届けいたします．

PET検査も次第に多くの先生方や患者さまにご認識いただけるようになり，検査数も増加してきました．当院での臨床検査数は月に100件～１５０件程ですが，その約4分の1が，地域の医療機関からのご紹介の患者さまに利用いただいております．

こうした現状を踏まえ，地域の医療機関からの紹介専用予約枠の創設や，PET検査受診者専用駐車場の設置など，多くの患者さまにPET検査をご利用いただけるよう努力してまいりました．また，他の検査や手術の予定などで，即日の検査を依頼される場合もありますが，薬剤を院内で製造していますので，検査時間の指定が無ければほとんどが対応できる準備をしております．もし，PET検査の適応となる症例がありましたら，ご遠慮なくご連絡ください．

また，保険適応とならない症例の場合には，自費診療または健診という形での検査も受け入れております．様々な症例や，適応，検査結果へのご質問など，どのようなことでも結構ですので，疑問な点はお問合せください．

PETによる病期の再評価の時期と役割

PET検査の有用性に関する論文は数多くありますが，今回はThe New England Journal of Medicineに掲載されたCurrent Concept:Positron-Emission Tomography to Assess Cancer Therapy（最近の概念：PETと癌治療の評価）よりPETによる病期の再評価の時期と役割のTableをご紹介します．

なお，日本での保険適応疾患とは一部異なります．ご不明な場合は，遠慮なくお問合せください．

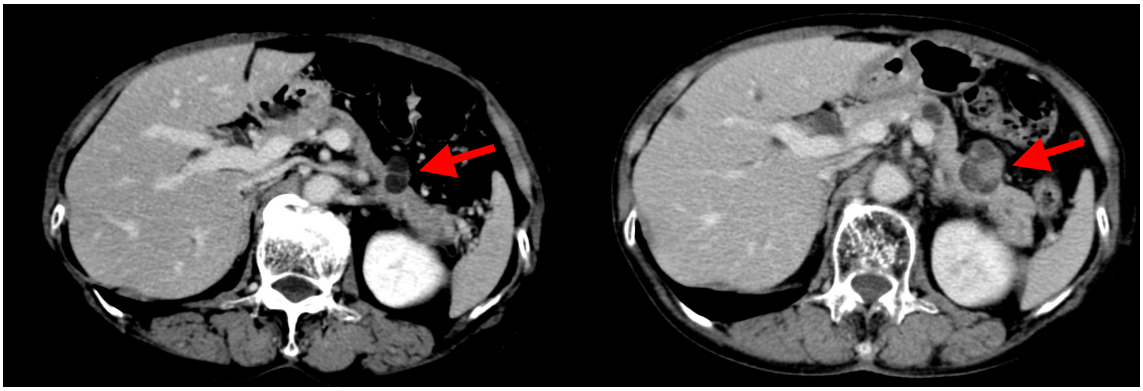
この日本語訳は，日立総合病院の森田茂樹医師によるものです．詳細は原文（N ENGL J MED 354;5 February 2,2006)を参照ください．

がんの種類	PETによる再評価の時期	PETの主要な貢献
非小細胞肺癌	放射線化学療法終了後2-6ヶ月 手術後1-2ヶ月	胸部X-Pで異常影が残っている患者での残存癌もしくは再発癌と繊維化の鑑別
	臨床的，生化学的所見，従来の画像で再発が疑われた時	再発を疑った場合の確定のための生検場所の選択 再発の精確な範囲（局所か遠隔か）の決定
乳癌	臨床的，生化学的所見，従来の画像で再発が疑われた時	再発の精確な範囲の決定 転移と良性の腕神経叢障害の鑑別
結腸癌・直腸癌	臨床的，生化学的所見，従来の画像で再発が疑われた時	CEAの上昇によって疑われた再発を治療後の繊維化か腫瘍が残存しているのか区別する 再発の精確な範囲（孤発なのか播種なのか）と肝転移が切除可能かどうかの決定
食道癌	臨床的，生化学的所見，従来の画像で再発が疑われた時	局所，遠隔の再発の従来の画像より精確な診断（吻合部周囲はあまり精確でない）
頭頸部癌	放射線化学療法終了後2-6ヶ月 手術後1-2ヶ月	従来の画像より精確な治療効果の評価と早期の残存，再発病変の発見
	臨床的，生化学的所見，従来の画像で再発が疑われた時	再発の精確な範囲の決定
リンパ腫	治療完了3-4週間後 放射線外照射2-3ヶ月以降	腫瘍が残っている患者で残存する腫瘍と壊死・繊維化との鑑別，従来の画像より精確な完全寛解，部分寛解の鑑別
	臨床的，生化学的所見，従来の画像で再発が疑われた時	再発の精確な範囲の決定
メラノーマ	臨床的，生化学的所見，従来の画像で再発が疑われた時	肺転移を除く（CTの方が感度が高い），従来の画像より精確な局所，遠隔再発の診断
甲状腺濾胞癌	血清サイクログロブリンが上昇（10ng/ml以上）し，全身の^{131}Iシンチが陰性だったとき	残存，再発病変（局所もしくは遠隔）の発見 根治手術可能か，姑息的治療をするかの鑑定

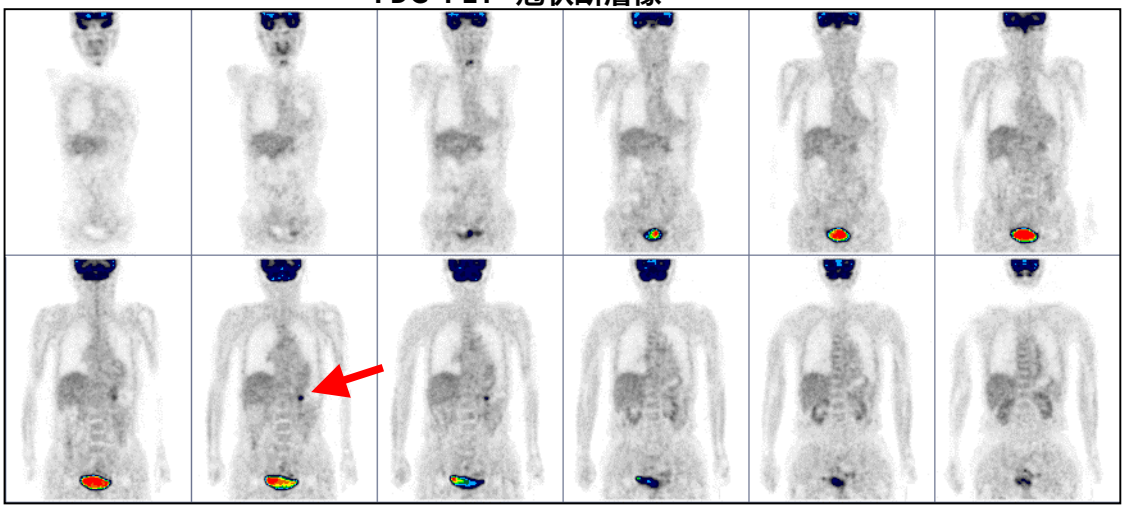
PET検査症例

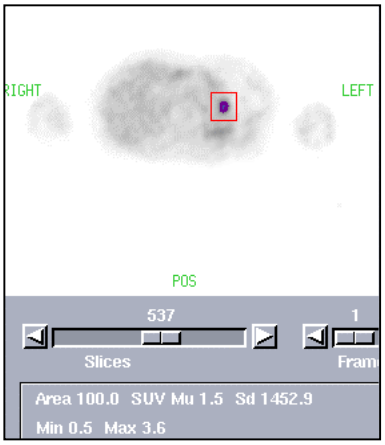
74歳　女性
2003年より膵臓の嚢胞性腫瘍で経過観察中.
2007年に入って嚢胞の増大と充実成分の出現が認められた.

2003年 腹部造影CT　　2007年腹部造影CT



FDG-PET　冠状断層像





FDG-PET　軸位断層像

CTで認められた嚢胞性腫瘤中に増大してきた充実成分に一致してFDGの集積増加が認められる.

[病理診断]
分枝型膵管内乳頭粘液性腺癌（TisN0M0：stage 0）

編集後記

今年の夏は，大変な暑さでした．この暑さのせいか，7月は満杯だったＰＥＴ検査の予約も，8月は，比較的空いていました．確かに，外出も控えたくなるような暑さでした．

ＰＥＴレターの第2号が完成しました．今回は，「ＰＥＴ検査をどのような時に使えばよいのか」，という疑問に参考になればと思い，The New England Journal of Medicine掲載の論文から一部抜粋し掲載しました．適応症例があった場合には，ぜひご一考ください．ただ日本での保険適応の問題もありますので，ご不明な点がありましたらご遠慮なくお問合せください．

また，掲載ご希望の内容や，検査をご利用いただきPETが有効であった症例なども情報をお寄せいただければ幸いです．

問合せ先：日立総合病院PETセンタ　鈴木達也　0294-23-1111（代）　E-mail：tatsuya.suzuki.gh@hitachi.com